

2026年2月17日(火) ハコラク3月号 掲載

医療の現場から『心理検査ってどんなもの？子どもを中心に考える視点から』

こども子育て支援室 村梶 夏希 臨床心理士(公認心理師)

心理検査ってどんなもの？ 子どもを中心に考える視点から



函館中央病院

こども子育て支援室

臨床心理士(公認心理師)

村梶 夏希 さん

子どもに行う心理検査には、知能検査や発達検査など、子どもの発達や得意・不得意の特徴を知るためのさまざまな方法があります。「検査」と聞くと、血液検査やレントゲンのようなものを思い浮かべる方もいるかもしれませんが、しかし、子どもの心理検査は少し違い、子どもが検査者と一対一でやりとりをしながら進められるものです。特に小さな子どもの場合、クイズやパズルのように遊びに近い感覚で取り組めることも

子どもに行う心理検査には、知能検査や発達検査など、子どもの発達や得意・不得意の特徴を知るためのさまざまな方法があります。「検査」と聞くと、血液検査やレントゲンのようなものを思い浮かべる方もいるかもしれませんが、しかし、子どもの心理検査は少し違い、子どもが検査者と一対一でやりとりをしながら進められるものです。特に小さな子どもの場合、クイズやパズルのように遊びに近い感覚で取り組めることも

あります。検査ではまず、子どもが安心してできるようにラポール(信頼関係)を築くことが大切です。初めて会う大人と向き合うのは、どの子にとっても緊張するものです。検査者が「これからこんな流れで進むよ」と事前に見通しを伝え、子どもが状況を理解しやすいように説明することで、「こなら大丈夫」と感じられる環境を整えていきます。こうした安心感が、子どもが力を発揮するための第一歩

あります。

になります。心理検査は子どもに負担がかかりすぎないよう工夫されていますが、普段とは違う環境で過ごすこと自体が疲れや不安につながることもあります。保育園や学校のあとでは集中が続かない場合もあるため、あらかじめ休息を十分にとったり、落ち着いて取り組める時間帯を選んだりする配慮があると、子どもが持つ力をより自然に発揮しやすくなります。検査の結果として、IQ(知能指数)や発達年齢といった数値が示されることありますが、これらは子どもを評価するための「レッテル」ではありません。むしろ、その子に合ったサポートの方向性を考えるための手がかりとして活用されるものです。大切なのは数値そのものではなく、「この子がより安心して過ごすには何が「必要か」を考える姿勢です。心理検査は、子どもの持つ力を深く理解し、より良い環境や支援につなげるための入口です。子どもが今困っていることや心配なこと、サポートのために知りたいことを踏まえ、検査の目的や必要性を専門機関と相談しながら進めていくことが大切です。